

2002年9月20日(金)
日経産業新聞 ベンチャー SOHO欄掲載
物流管理ソフトを受注開発～日本ロジファクトリー～

物流コンサルティングの日本ロジファクトリー(大阪市 青木正一社長、06・6245・3368)は顧客企業の業務改善に必要な物流管理ソフトの開発・販売を始めた。

従来は市販ソフトを使ってきたが、改良が必要となるケースが多かった。顧客の特性に応じたソフトを自社で提供することで、早期に業務を効率化できるとみている。

受注販売するのは配送管理や入荷管理など物流業務用の7種類のソフト。価格は一種類あたり五百万～七百万円。コンサルティングを受けない企業からのソフト開発も同一料金で請け負う。コンサルティングの顧客は市販ソフトを活用することもできるが「市販品で改良した場合一千万円程度の費用がかかる」(石橋岳人取締役)という。

市販の配送管理ソフトでは商品の重量や配送先などによって配送車を自動的に決めるシステムが一般的で、混載を避けたい商品がある場合などは物流業者が独自に改良する必要があった。こうした企業に自社開発ソフトを売り込み、初年度三千万円の販売を目指す。